

会津美里町・会津若松市
喜多方市・磐越自動車道
大内ダム

下野街道 宿場 大内宿

(会津西街道)

五穀豊穡や家内安全、商売繁盛で
名高い小野観音堂です。

昔ながらのたたずまい
が今も残っている
素晴らしい宿場町
なんだな~

湯野上温泉駅から約6kmくらい。
いよいよ見えてきたぞ大内宿。
江戸時代の旅人が今でも
出そうだな

皆さん、
マナーは守って
ゴミは持ち帰りましょう

高倉神社は平清盛
の全盛期に反平氏
の挙兵をした高倉
宮(後白河法皇第二
皇子)が戦いに敗
れて潜行したと伝
えられています。
毎年7月2日、古
式豊かに行われ
る「大内半夏まつ
り」は高倉宮ゆか
りの祭りです。

新そばの時期は11月
からおいしいそばが
味わえるよ!そば打ち
体験もできるんだよ

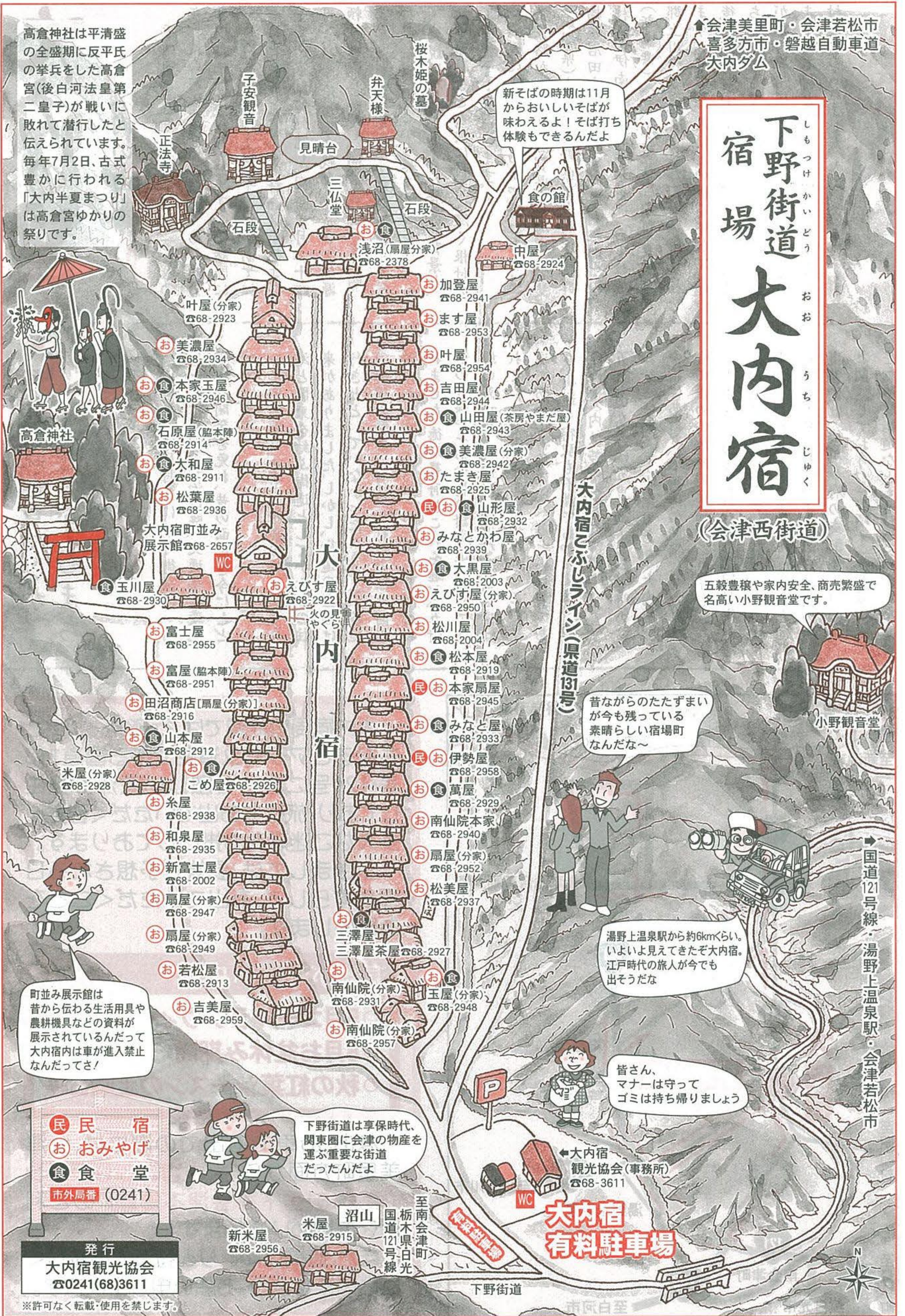
町並み展示館は
昔から伝わる生活用具や
農耕器具などの資料が
展示されているんだって
大内宿内は車が進入禁止
なんだってさ!

下野街道は享保時代、
関東圏に会津の物産を
運ぶ重要な街道
だったんだよ

民 民 宿
お おみやげ
食 食 堂
市外局番 (0241)

発行
大内宿観光協会
☎0241(68)3611

※許可なく転載・使用を禁じます。



- 加登屋 ☎68-2941
- ます屋 ☎68-2953
- 叶屋 ☎68-2954
- 吉田屋 ☎68-2944
- 山田屋(茶房やまだ屋) ☎68-2943
- 美濃屋(分家) ☎68-2942
- たまき屋 ☎68-2925
- 山形屋 ☎68-2932
- みなとかわ屋 ☎68-2939
- 大黒屋 ☎68-2003
- えびす屋(分家) ☎68-2950
- 松川屋 ☎68-2004
- 松本屋 ☎68-2919
- 本家扇屋 ☎68-2945
- みなと屋 ☎68-2933
- 伊勢屋 ☎68-2958
- 萬屋 ☎68-2929
- 南仙院本家 ☎68-2940
- 扇屋(分家) ☎68-2952
- 松美屋 ☎68-2937
- 三澤屋 ☎68-2927
- 三澤屋茶屋 ☎68-2927
- 南仙院(分家) ☎68-2931
- 玉屋(分家) ☎68-2948
- 南仙院(分家) ☎68-2957

- 叶屋(分家) ☎68-2923
- 美濃屋 ☎68-2934
- 本家玉屋 ☎68-2946
- 石原屋(脇本陣) ☎68-2914
- 大和屋 ☎68-2911
- 松葉屋 ☎68-2936
- 大内宿町並み展示館 ☎68-2657
- 玉川屋 ☎68-2930
- 富士屋 ☎68-2955
- 富屋(脇本陣) ☎68-2951
- 田沼商店[扇屋(分家)] ☎68-2916
- 山本屋 ☎68-2912
- 米屋(分家) ☎68-2928
- こめ屋 ☎68-2926
- 糸屋 ☎68-2938
- 和泉屋 ☎68-2935
- 新富士屋 ☎68-2002
- 扇屋(分家) ☎68-2947
- 扇屋(分家) ☎68-2949
- 若松屋 ☎68-2913
- 吉美屋 ☎68-2959



国道121号線・湯野上温泉駅・会津若松市



大内の里から

大内の由来

平清盛全盛期の治承四年(一一八〇年)、後白河天皇の第二皇子である高倉宮^{たかくらみや}以仁王は、源頼政のすすめで諸国にいる源氏と延暦寺の反平家勢をあてに挙兵をしましたが、この計画は予想より早く平家側に発覚し、同年六月二十四日、京都宇治川で合戦となりました。源頼政は討ち死にし、高倉宮は行方不明。また、流れ矢にあたって戦死したとも言われ、伝説はここから始まりました。そして、伝説はロマンを秘めた歴史的背景と、伝承遺跡などと共に村人に深く根付いて語り伝えられています。

伝説によれば宇治川で敗れた宮は、奈良路から近江(滋賀県)東海道・甲斐(山梨県)・信濃(長野県)・上州沼田(群馬県沼田市)・尾瀬(群馬県利根郡)・檜枝岐・伊南・大内・只見を通して越後(新潟県)入り、小川荘中山村(東蒲原郡上川村)で死去されたことになっています。宮は二十人ほどの供を連れて、越後国に住む小国右馬頭頼之を頼りに落ちのびてきて、大内に立ち寄り、この里が都の風情に良く似ている所から、それまで山本村と呼ばれていたものを大内村と改められました。

宿場町の形成

伝説とロマンが
たたずむまち

大内は、江戸時代に下野街道の一宿場として栄え、明治以降、交通路の変化により開発を免れ、昔の面影を今にとどめています。

この街道は、すでに鎌倉の時代から会津と関東を結ぶ街道としてかなりの往来がありました。しかし、街道の整備は行きとどいていなかったようです。各地の街道の整備に力を入れたのは戦国の時代からで、全国統一の一環として行われました。徳川幕府がこれを継ぎ、五街道の幹線やその付属の諸街道に対して支線の意味で、脇往還、脇道などとも呼ばれていました。下野街道は、一つの脇街道であって幹線に比べると小規模であり、街道も宿駅も不備であったようです。また、大内は若松へは約四里半(十六・五km)田島へは五里(二十km)当時の一日行程は約八〜十里であり、大内宿は中宿にあたり、本街道の間宿にあたり昼食のための休憩の宿場でありました。大内宿が形成されたのは、同じ街道筋にある川島宿が承応三年(一六五四年)にできたことから考え、ほぼこれと同じ頃と考えられています。江戸時代の街道整備は、徳川幕府の支配体制の確立と関連しており、この頃すでに、五街道を初め脇街道なども整備されました。

大内宿周辺地域では、行楽シーズンともなるとアクセス道路である国道118号・121号において激しい渋滞が発生しており、旅行でお出でいただく皆様に多大なご迷惑をお掛けしております。

つきましては、混雑が予想される日程をずらして、お出でいただくことをお勧めします。

混雑が激しい日

- 5月ゴールデンウィーク
- 8月お盆休み期間
- 秋の紅葉シーズンの土曜日曜

なお、お車でお出での際には、会津美里町方面から“大内宿こぶしライン(県道131号下郷会津本郷線)”のご利用をお勧めいたします。

また、時間にゆとりを持ってお越しくださいますよう、お願い申し上げます。

